

ZOOM発信・伝承文学あれこれ (9)・向こうの山で鹿が鳴く

2022年6月27日 (月) 20:00~21:00

酒井 ただよし 董美

向こうの山で鹿が鳴く (子守り歌)

向こうの山で鹿が鳴く
鹿どん 鹿どん なぜ鳴きやる
何にも悲しゆはないけれど
六十ばかりのご隠居が
肩には鉄砲 手に火縄
むく毛の犬めを先につれ
虎毛の犬めを後につれ
むく行け 虎行け けしかける
それがあんまり怖ろしゅうて
助けてやんさい 山の神
助けてもろうた御礼に
岩山崩して谷を埋め
一間四面の宮を建て
金の灯籠を千とぼす

(昭和35年1月12日収録)

☆伝承者 新田幸一さん・明治24年生



解説

ゆったりとした口調で新田さんはうたってくださいました。筆者は子守歌の中の間接寝させ歌か遊ばせ歌に分類したらよいと思うが、当時は単にわらべ歌という注文でお願いし、それがどの分野に属しているか知らなかったのである。

以前、石見方言研究者の神本晃氏から便りをいただいた。表紙に「明治四十年四月改之」と記された岡崎伊勢次氏による『地方之俗謡』なる文書を持っているが、中にわらべ歌がいくつか入っている、とのことだった。それには「手まり歌」として次の歌があった。

向こうの山で鹿が鳴く
鹿さん鹿さん なして鳴く
六尺五寸の男めが
肩には鉄砲 手に火縄
後には虎毛の犬をつれ
先にはむく毛の犬をつれ
虎行けむく行け追っかける
それがあんまり怖ろしゅうて
助けてやんなれ山の神
助けてもろうた御礼には
一間四方の宮を建て
金の灯籠を千とぼす

ここから分かるように、明治のころ、この歌は当地で盛んにうたわれていたのである。同じ島根県でも隠岐郡西ノ島町赤之江では、わらべ歌というのではなく、大人の世界の祝い歌に属する「相撲取り節」として存在していた。

ハアーここのまた奥山の
そのまた奥山にヨー
ハアー鹿が三世鳴きなんす
かんじが強うて鳴くかいな
腹がひもじゅうて鳴くかいな
親に恋しゅうて鳴くかいな
かんじが強うて鳴くじゃない

親に恋しゅうて鳴くじゃない
腹がひもじゅうて鳴くじゃない
ここの奥の その奥に六十余りの老人が
肩には鉄砲ふりにない（以下略）
（小桜シゲさん・明治42年生）

さらにつけ加えれば、同類ははるか東北の民謡「津軽小原節」や「秋田小原節」の詞章として現在でも広く歌われているのである。

（イラスト・福本 隆男）

受講者からの反響など

一本講座、月曜日の懇話会を問わず参考になるものを氏名明記で掲載します。匿名はおこないません

6月6日

☆ 「むすびを食べた地藏様」（5月26日ミニオンライン講座）について

全国に類話の少ない単独伝承型の話型とのことでした。いいお話だと思い、調べ始めたら、奈良県斑鳩のお地藏さんの伝説と、小林一茶の『おらが春』に出会いました。な一みんの皆様は、よくご存知の伝説かと思います。いろいろ教えていただけたらうれしいです。よろしく願います。

小林一茶『おらが春』より

昔、大和国立田村にむくつけき女ありて、まゝ子の咽を十日程ほしてより、飯を一椀見せびらかしていふやう、「是をあのお地藏のたべたらんには、汝にもとらせん」とあるに、まゝ子はひだるさたへがたく、石仏の袖にすがりて、しかじかねがひけるに、ふしぎやな、石仏大口あけてむしむし喰ひ給ふに、さすがの、まゝ母の角もぽつきり折れて、それよりわがうめる子とへだてなくはごくみけるとなん。その地藏菩薩今にありて、折々の供物たえざりけり。 ぼた餅や藪の仏も春の風

（現代語に直訳してみました）

むかし、大和国立田村に荒々しい女がいました。女は、まゝ子を10日ほど飲まず食わずにしたあげく、ひと椀の飯を見せびらかして、『あのお地藏さんがこのご飯を食べたなら、お前にも食べさせてやる』といいました。まゝ子はひもじさに耐えられず、地藏さんにすがって、『どうかお地藏さま、ご飯を食べてください』とたのみました。すると不思議なことに、お地藏さんが大きな口を開けて、むしゃむしゃとご飯をおたべになりました。これを見て、継母の（心の）角もぽつきり折れて、それからは、継子を実の子とわけへだてなく育てたということです。その地藏菩薩は、今も、折々のお供物が絶えないそうです。

（日切地藏）

『おらが春』に登場する地藏さまは、奈良県斑鳩町龍田の斑鳩町役場の近くにある日切地藏（ひきりじぞう）とのことです。

福井 坪川祥子

酒井より

ZOOMの会が終わって、このメールを拝見しました。次回の資料の最後にいただいたメッセージを入れておこうと思います。

『おらが春』の中に類話があったとは知りませんでした。伝承とは面白いものですね。

それとともにいろいろな話題が出ることも楽しいです。今後ともよろしくお願いします。お休みなさい。

☆ 今晚は、お顔が見られず残念でしたが、希望通り「因幡の白兔」の紙芝居見せて頂きありがとうございました。やはり地元だなと感心しながら見ました。

また、「うめぼしさんのうた」の載っているという「山陰のわらべうた」アマゾンで購入でき

ました。松田さんが教えて下さり、すぐに問い合わせました。なんとかうたがわかりそうです。

また、先日の「さじ谷ばなし」は佐治の教育委員会に問い合わせましたら、カミング佐治で扱っているとのこと、さっそく注文しました。届くのが楽しみです。

こうして、各地方の方のお話や情報を得られ、とても助かります。来週はお休みとのこと、また、次回皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。ありがとうございました。

東京 山浦敬子

酒井より

メール、ありがとうございました。

ZOOMの会での山浦さんのご発言のおかげで、いろいろ盛り上がりありがたいことだと喜んでおります。

これからもよろしく願います。

6月23日

今日はミニオンライン講座2回も参加させて頂きありがとうございました。午前、午後ともメンバーが違うと、雰囲気も話題も変わるのだと、興味深く感じました。

特に、2回目に「ねずみ浄土」で、隠岐の島についての先生の思い出話（立命館大学での口承文芸学会）は、先生が島で教師をされながら、生徒達と民話採集にご苦労されたんだなど感じ入りながら聞かせて頂きました。

また、隠岐島の方々の特徴として挙げられた、「言葉がわかりやすい」「親切」「品がある」ということを聞き、今日の二つの隠岐島の昔話を通して、それがよく伝わってくると思いました。

隠岐島にぜひ行って、焼き飯を食べながらお話を聞きたくなりました！

だんだん、山陰地方が近くなってきました。次回も楽しみにしております。

東京 山浦敬子

酒井より

メッセージ、ありがとうございます。

二回ともご出席くださったお二人（山浦さんと坪川さん）へのコメントを最後にうかがうべきだったと反省しております。

メールでご厚意あふれるご感想をいただき、恐縮しております。

精いっぱい、楽しい講座にたく努力しますので、今後ともよろしく願います。

お休みなさいませ。